

**問1. これまで「市民参加」に関わる業務に携わったことがありますか**

1. はい →問2～5へ 17名
2. いいえ →問6・7へ 18名

**問2. これまで担当された市民参加に関する業務を教えてください。**

- 新校設立時の校歌や校章の公募
- 無作為抽出アンケート・ワークショップ
- 国際化推進業務
- 介護保険業務
- マイナンバー業務
- 循環バス運行ルート見直し 説明会・パブリックコメント
- 計画等作成 説明会・パブリックコメント・協議会
- 体育協会との協働事業（スポーツ教室の実施等）
- 市民体育祭
- ロードレース
- 公民館運営業務
- 第二次健康わこう21計画 第三次和光市食育推進計画
- 和光市総合振興計画策定、進行管理
- 国道254号和光バイパスに関する説明会
- 環境基本計画策定業務・環境審議会 等
- 地域公共交通計画の策定や市内循環バスの運行見直しに関する業務
- 市民緑地に係る計画の測定業務。
- 平成30年度 都市整備課実施「和光市駅南口駅前広場 景観づくりワークショップ」
- 平成22年、和光市議会基本条例の施行（説明会、パブリックコメント、報告会）
- 市内循環バス運行ルート見直し（パブリック・コメント）
- 和光市駅南口自転車駐車場使用料見直し（パブリック・コメント）
- 和光市児童センター設置及び管理条例に関するパブリックコメント実施
- 計画等策定業務

**問3. 「市民参加」を通じて、得られた効果や経験等を教えてください。**

- 積極的に意見を求めにいかないとあまり意見が集まりませんでした。
- 市民の意向を事業計画に反映できました。
- 市民の意見を得られること。
- 市民の考えを理解できる
- 市職員だけでは思い付かないような視点を事業に取り入れることができる。
- 意見を反映した事業の実施
- パブリックコメントを実施し、市民の意見を徴取することができ、施策への反映について考える機会となった。
- 市民参加という公式の場で提出される意見は、担当課だけではなく審議会や会議で検証されるため、客観的な視点でクレームと分けて整理され、計画に反映できること
- 説明会を回数を行うことで、理解を示してくれる市民が徐々に増え、事業が円滑に進む。
- 様々な立場からの意見に触れることができ、多面的な見方を学んだ。
- 意見交換会やワークショップ等を行う事で、アンケート調査等では得られない日常的な困り事等の生の情報を得ることができる。(特に高齢者は自由記述が億劫であり、意見があってもアンケート等は何も記載しないで回答をしてしまうと言われたことがある。)
- 結論に対して、市の一方的な決定でなく意見交換を行ったうえの結論であると、一定の納得感を持ってもらえる。
- 熱心なやりとりを行うことで市民から信用してもらえることもある。
- 透明性を担保できる。
- 参加する個人では、世代や住む場所等の違いにより、意見や考え方が異なるが、ワークショップ等の市民参加手法により「個々ではない回答・方向性」が得られると感じた。
- 少数ではあっても、専門的知識のある人、強く興味を持った人が熱心に意見を出されていました。
- 市民の意見や考えを計画に取り入れることができた
- 条例のパブコメ説明会ではあるが、実際に参加された市民の方からは、運営に関する要望や意見、疑問点など利用者目線での声をいただき、今後の運営に際して事業者への要望へとつながった。(駐輪スペースの確保やスペースの区切り方など)
- 市民参加を通じて得られた効果として、ある事業に対して寄せられた意見を当該事業に反映できない場合であっても、以後の業務において、それらの意見を加味しながら検討を重ねられる点が挙げられます。

**問4. 「市民参加」に関わる業務の中で苦勞したことを教えてください。**

- どうしたら多くの市民の目に届き、提案したくなるか。
- 無作為抽出アンケートの発送や集計作業に時間と労力がかかりました。ワークショップの進め方を考えたり、資料を作成するのに苦勞しました。
- たくさんの意見が出るため、まとめるのが大変苦勞する。
- 説明会等の日程調整や会場選定
- 事業を実施するにあたり、どこまでを市で行うか、どこまでを市民側で行うか、役割分担に係る協議が難航したこと。
- 意見のとりまとめ
- パブリックコメントに対する回答作成する際の内容について、短期間で実施する為、また、表現をどうするか等、関係者との調整も有り、苦勞した。
- 会議録の作成
- 説明を何度行っても理解いただけない住民の方に対しては費やす労力が大きい。
- 意見調整・スケジュール調整
- 行政側は市域全体を考えて議論を行うが、市民は自分の行動範囲での視点での意見となりがちであるため、協議が噛み合わなくなったり、課題の共有が困難になることがある。
- 様々な意見や要望が出る中で、協議の着地点（妥協点）の検討が難しい。
- 「市民意見を聴く事」が、「声の大きい人の意見を聴く事」にならないよう注意しないと、むしろ結果的に多くの市民にとってマイナスな結論になり得るように思う。
- 参画を参加と理解している市民が多く。要望、要求ばかりの意見の調整に苦勞した。
- グループワークにより、各グループの意見をまとめる手法で実施する場合、参加者によって意見を出しづらい雰囲気にならないよう配慮すること。
- 有益な意見もある一方、意見という苦情も多く、情報の精査と回答の難しさ、業務時間が増えることは負担に感じました。
- 一部の大きな声に引っ張られすぎないようにバランスを取ることに苦勞した
- 現状に不満がある方からのご意見は多数集まるが、現状に満足している方は声を上げない（意見を提出しない）傾向があるように思います。一部の意見だけを取り入れて計画を変更すると、それまで満足していた多数の方にとって不利益となることがあることに注意しなくてはならないこと。
- 多くの方に参加いただくように周知や参加募集の方法。
- 出た意見の精査、回答の検討、作成。

**問5. 今後、より意義のある「市民参加」を推進する上で対応が必要と思われる課題を教えてください。**

- 普段意見があまり出ない世代からも提案していただいたり、意見をいただくこと。
- 市の施策に市民参加は必須であると考えているが、募集しても特定の人しか参加しない傾向が強く、サイレントマジョリティーへの配慮も必要だと思います。【意義ある市民参加】とは何をすればいいのか教えていただけると幸いです。何をどのようにやればいいのかわからないのが課題だと思っています。
- 市民参加を行っていることをどう周知していくのか
- 会議や事業実施にあたって、一部の声の大きな方の意見が反映されがちであり、多様な意見を反映したものにならない場合が多々あること。
- 転出入が多い当市では、地域への関心が薄い。どう関心を持ってもらうか等、市民参加がしやすい環境の整備が課題と考える。
- 市の施策に興味を持っていただけるような情報発信。市民説明会を実施しても、ほとんど参加者が少ないため。(内容によっては、多いのかもしれませんが)
- ホームページで募集して集まった参加者やアンケートに回答してくれた人の意見に加え、積極的に行政と関わりを持とうとしない市民の意見をどのように把握していくのが課題だと思います
- 電子媒体を有効的に活用する。
- 市民参加の業務に初めて触れたり、異動によって離れていて久しぶりに業務についた場合には戸惑うことも多いので、そのフォローがあると形骸化せず有効な市民参加となるように思います。マニュアルに加えて、実際に実行して有効だったことを他の市民参加対象業務に課を超えて取り込んでいける仕組みがあると市民参加が加速すると思います。また、審議会等の委員の固定化や高齢化に課題があると思います。
- 市民であれば誰でも良いのではなく、どのような市民を対象に参加を求めるのかを考え、またその対象に適切にアプローチし、協力を得られる準備が必要。
- 意見が対立するようなテーマや市民にとってマイナスとなり得るような協議等の場合、担当職員が矢面に立つことになり負担が過大となる場合がある。可能な限り、チームでの対応が必要になるかと思う。
- 参加者する市民の参加意識の高揚。
- 市民参加を補足する事前アンケート等の準備も重要な要素であることを認識すべきだと思います。
- 近年は市民参加に関わっていないため、効果的な進め方が研究され、変化をしてきたのか、良い結果につなげることができた実例や、市民の反応について現状と課題を知りたい。

**問5. 今後、より意義のある「市民参加」を推進する上で対応が必要と思われる課題を教えてください。**

- 一部の要望等に偏ることが無いよう、様々な意見や考えを広く集める必要があると思います。そのために広く意見を募る仕組みづくりや仕掛けが不可欠だと思います。
- 市民参加を行う趣旨と、その会でいただく市民の方の意見がずれていて、意見反映が行うことが出来ないことが多いように感じる。(例：設管条例のパブコメであるが、建物・敷地のレイアウトに関する意見が出る)
- 市民参加の機会があることをより多くの市民に知っていただけるよう、周知方法の工夫が必要だと思います。

**問6. 「市民参加」を行うことによって、市の施策等に与える効果として期待できることがあれば教えてください。**

- 行政だけでは行き届かないアイデア・取り組みが可能になると考えられる。
- 市民が提案した意見が行政に反映されれば、市の信頼を獲得でき、市民の協力が得やすくなると思います。
- 人口減、職員減の中、まちづくりを推進するためには、現実的に人的資源が不足しており、市民の協力が不可欠になります。市民に市政を自分事ととらえ、興味を持ってもらう。行政が推進したい施策への賛同者になってもらい、進めやすくする。行政が勝手に考えた何かを施策にするのではなく、市民が真に必要なこと・ものに注力できるようになる。
- 民意を反映した施策となる。市が一方向的に作った施策を市民に押し付けるような形にならず、あると程度市民との合意形成された施策となると思います。
- 市役所の職員だけではなく、実際に市にお住まいの方々の意見を反映することができるため、より良いまちづくりにつながると思います。
- 市職員では考えつかなかったアイデアが出てくる可能性がある。
- 新たな発想・アイデア等を発見することができる。
- 自分たちの意見等が施策に取り入れられることで、市政を身近に感じてもらうことができ、市に愛着を持ってもらうきっかけとなる。
- 市民の意見が反映され、より市民ニーズに応える施策が図れると思います。
- 直接関わらせていただくことで、日頃聞くことができない「市民の声」を聞くことができ、その声を基に、よりニーズに沿った施策を講じることができる。
- 市民から意見聴取をすることで、効果の高い施策が展開できる。
- 市民側からの貴重な意見が聞ける。
- 市民の直接の意見をきくことで、職員の意識が変わること。
- 住民目線の多様な意見のエッセンスを政策に受け込ませることができる。
- プロセスの中で、参加者間でのつながりが形成されることが期待できる。
- 少なからず、市民の意見が反映されることがあると考えます。
- 市民の考え方、望むことを知る。行政の細やかな説明と、実行力と効果を出す能力向上。
- 市民参加を行うことで、市民の意見を反映した施策となり、今後住み続けたいまちづくりを形成できると思います。
- 市民の声を具体的に施策の評価等に反映することができる。
- 市に関する現状の認識や課題を共有し、将来像や方向性を共有することができると思います。
- 行政の外側からの忌憚のない意見や要望を知ること、ニーズを把握し、より良い事業の形を作り上げること。

問6. 「市民参加」を行うことによって、市の施策等に与える効果として期待できることがあれば教えてください。

- より市民が求める政策を行えるのではないか。
- より市民の意見を反映する施策を実施することができる。
- 施策の意図が政策に伝わる。

**問7. 「市民参加」に関する事業の担当となったときに不安に思うことを教えてください。**

- 「市民参加」と関わらない業務から初めて取り組むこととなったときに、どのように取り組んでいくかわからないこと。また新たに市民協働により事業に取り組むときに、これまで市役所と縁がなかったような方を巻き込んでいくにどうしていくか悩ましいです。
- 市民参加で貴重な市民の時間を使うことを申し訳なく感じます。ワークショップの進め方やメニュー、ほしい情報を適切に引き出すためにどのような工夫をしたらいいのかわからず不安です。
- 様々な意見が出ることで市民間で衝突が起こり、意見をまとめることが困難になることが起きた場合に適切な対応ができるか。
- 最終的に決まった施策と、市民の方々の意見が違ってしまった場合、施策に反対の方々に納得していただく必要があります。その対応について不安に思います。
- 形の見えない事業であるのと、あくまでもそのメンバーが実行主体ではないため、結果が目に見えない若しくは結果が出ない可能性があること。
- どのような方法で市民参加してもらうのが適切なのか。
- 効果測定をどのように行うのか。
- 多様な考えを持つ市民の方の意見をまとめること、そして、多くの人々が納得できる市民参加にできるか不安に思う。また、市民の考えと市の考えに違いがあった場合に、そこを受容してもらえるか不安に思う。
- 的外れな意見を数多くもらった時の対応
- 意見がまとまらないことへの不安。
- 対応不可能な要望をされてしまうこと。
- 一部の市民のみが参加すること
- 参加した市民の中で、声の大きい市民のみの意見が取り上げられること
- 多様な意見があり、市民の意見に添えないことがあった時に、説明して納得してもらったことが大変であるかと考えます。
- 業務量の負担。行政に偏らないバランスのとれた意見の見方。意見の取り入れ方。
- 市民参加の意見をすべて反映することはできないので、市と市民との合意形成の図り方についてどのように考えたらよいか不安に感じます。
- 関心が低い方にも積極的に参加していただけるような、参加しやすい仕組みづくりができるかどうか。
- 紛糾しそうなテーマを扱っている場合、市民から建設的な意見を引き出せなさそうです。

問7. 「市民参加」に関する事業の担当となったときに不安に思うことを教えてください。

- 事業の実現可能性や実際に実施する際の動きに関して、市民の感情・認識と市役所の認識との間に乖離があった際に、そのすりあわせが円満にできるかどうか不安です。
- 知識不足
- 意見が反映されなかった市民からの苦情
- 受け入れがたい意見や要望が出た時に、どのように対処するか。